



病院における歯科衛生士としての役割

大西 淑美

I. はじめに

当院のホームページ上において紹介しているように、当科は阪神間における歯科口腔外科2次医療機関として地域医療への貢献を目指し、病診連携を基本とした医療提供を行っています。また、当科では入院患者様を対象に、歯科衛生士による口腔ケアを実施しています。近年、口腔ケアは tooth cleaning や mouth care という狭義な分野にとどまらず、oral care、さらにはoral health care と広義な意味へと移行しています¹⁾。特別養護老人ホームにおいて、歯科衛生士による専門的口腔ケアを定期的に行うことで、発熱および咽頭細菌数が減少したと報告されて以来、医療現場だけではなく保健・福祉施設においても「口腔」への関心は高まり、重要視されるようになってきました^{2, 3, 4)}。そして、2006年に行われる介護保険法初の改正では「予防重視型への転換」が最大のテーマとされ、「筋力向上・栄養改善・口腔機能の向上」が新たなサービスとして導入されます⁵⁾。これは、口腔機能の向上が全身に大きく関与することを示すと共に、適切な口腔ケアが疾病予防の鍵を握っていることにつながることを表しています。特に要介護者の口腔ケアは、直視できる部位だけをケアするのではなく、全身状態を把握した上で口腔周囲から咽頭部におよぶ口腔全域を迅速かつ確実にケアすることが必要とされています。

そこで今回は、歯科衛生士の主な業務である専門的口腔ケアについて紹介することで、病院

における歯科衛生士の役割を理解していただければと思います。

II. 当院における専門的口腔ケア業務

専門的口腔ケアとは⁶⁾「口腔領域における疾患の予防、機能の維持・回復、ひいては健康と生活の質の向上のため、口腔保健や歯科医学の理論・知識に基づき歯科保健医療の専門職が行う、口腔保健指導、専門的口腔清掃、口腔機能の維持・回復のための指導・助言、歯科口腔領域の介護援助などの技術をいう」とあります。この場合の「専門的口腔清掃」とは「専門的口腔ケア」の中核をなすもので、歯科衛生士が歯牙、粘膜および歯肉ポケット内の付着物などを機械的、化学的操作によって除去することをいいます。一方「口腔機能の維持・回復」とは、摂食機能が低下あるいは障害された要介護者に対して機能減退に応じた食事介助や指導(訓練)を行うことをいいます。

歯科衛生士による「専門的口腔ケア」の効果は、以下の5つです。

- (1) 口腔細菌由来の誤嚥性肺炎や細菌性心内膜炎などの感染予防
- (2) 咀嚼機能や摂食嚥下機能、口腔粘膜の感覚機能やコミュニケーションなどの口腔機能の維持と回復
- (3) 唾液分泌を促進することで口腔乾燥や口臭を予防し、爽快感や味覚の回復
- (4) 虫歯、歯周病、口腔粘膜疾患などの口腔疾患予防
- (5) 心地よい睡眠や自立支援による日常生活リズムの回復

当院では入院患者様への専門的口腔ケアの提供を外来と病棟において実施しています。以下に、外来と病棟における専門的口腔ケアの概要を簡単に説明します。

1. 外来での専門的口腔ケアの役割

- (1) 消化管手術の周術期に口腔内細菌由来の術後合併症を予防する
- (2) 頭頸部の放射線療法による口腔内副作用を予防する
- (3) 化学療法による口腔内副作用を予防する
- (4) 栄養サポートチームの一員として口腔からのアプローチにより栄養摂取の支援を行う (図1)
- (5) 口腔ケアが困難な入院患者様への自立支援



図1. 専門的口腔ケア実施中 (外来)

特に消化管手術の場合は、手術前から専門的口腔ケアが介入することにより、口腔内環境を整え術後創部の哆開 (しかい) を予防し、在院日数の短縮につながります。また、放射線・化学療法においても治療前からの介入が、口腔内副作用を最小限にとどめています。

2. 病棟での専門的口腔ケアの対象者

- (1) 口腔ケアの介助が困難な患者様 (人工呼吸器装着、誤嚥性肺炎の併発、終末期など) (図2)
- (2) 口腔内状態に問題のある患者様 (易感染性、出血性素因、くいしばりなど)
- (3) 周術期介入で術直後など外来出棟が困難な状態にある患者様



図2. 専門的口腔ケア実施中 (病室)

当院では、1999年9月から、歯科衛生士によるベッドサイドでの口腔ケアを行っています。人工呼吸器装着においては、人工呼吸器関連肺炎の予防のために多くの施設で口腔ケアプロトコルが作成され、積極的に口腔ケアが行われています。また、終末期患者様においては、口腔細菌叢の破綻および口腔内の自浄作用の低下、摂食・嚥下といった口腔機能の低下がみられることが多く、易感染な環境となります。病態に応じた口腔ケアは、日々の QOL を向上させるとともに穏やかな終末を迎える一助となります。このような外来出棟が困難な患者様の口腔衛生管理を行うためには、患者様の身体面、精神面、社会面の最新の情報を収集することが必要です。個々の患者様に合わせた最良の口腔ケアを提供するために、患者様にかかわる医師・歯科医師・薬剤師をはじめ看護職、医療職などさまざまな職種の人たちと連携が取れる口腔ケアシステムを確立しています (図3)。

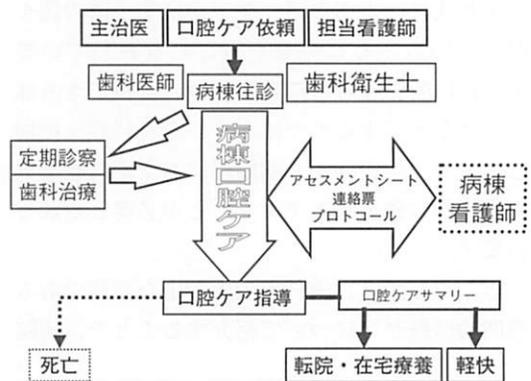


図3. 病棟における専門的口腔ケアシステム

Ⅲ. 図書室の利用について

先述したように、口腔ケアは全身の改善にもつながることから、より専門的で個々の症例にあわせたオーダーメイドの方法が求められています。専門的口腔ケアの実施場所を外来から病棟へ拡大した時点から、情報の宝庫である図書室はなくてはならない場所となっています。歯科衛生士の専門書のみでは無力です。多岐にわたる分野の専門書に加えて最新の情報を入手するために、新着雑誌のブラウジングやウェブサイトなどを閲覧し先行研究を知ることが大切だと考えています。また、数年前から「口腔ケア」に関する内容で学会発表や講演、投稿などをさせていただき、財団法人8020推進財団の「入院患者に対する包括的口腔管理システムの構築に関する研究」においては2004年度の研究会議より参加させていただいています。私の許容量を遥かに超えた内容ですが、図書室は勉強する環境が整っているため原稿の執筆には最適な場所です。唯一残念なことは、必要な雑誌の巻号に限って抜けていることがあります。また個人的な希望ですが、他職種の専門書は理解し難い高度な内容が多いため、基礎的な図書も充実していただけると助かります。

Ⅳ. まとめ

「口腔ケア」と比して「歯科衛生士」はいまだに知名度が低いのが現状です。コメディカルの一員として認めてもらうためには、歯科衛生

士の独自性を十分に発揮し、口腔の専門家として知識と技術を確立していく必要があります。今後も関西労災病院の図書室が、充実した場所であり続けてくれることを願っています。

参考文献

- 1) 静岡県歯科医師会編. EBM に基づいた口腔ケアのために. 東京：医歯薬出版；2002. p. 25-32.
- 2) 弘田克彦, 米山武義, 太田昌子他：プロフェッショナル・オーラル・ヘルス・ケアを受けた高齢者の咽頭細菌数の変動. 日本老年医学会雑誌. 1997；34 (2)：125-9.
- 3) 足立三枝子, 植松久美子, 原智子他：専門的口腔清掃は特別養護老人ホーム要介護者の発熱を減らした. 老年歯科医学. 2000；15 (1)：25-30.
- 4) 米山武義, 吉田光由, 佐々木英忠他：要介護高齢者に対する口腔衛生の誤嚥性肺炎予防効果に関する研究. 日本歯科医学会誌. 2001；20：58-68.
- 5) 厚生労働省. 介護保険制度の見直しについて. [引用2006-01-12].
<http://www.mhlw.go.jp/topics/kaigo/>
- 6) (社)日本歯科衛生士会編. 歯科衛生士が行う要介護者への「専門的口腔ケア」－実践ガイドライン－. 東京. (社)日本歯科衛生士会；1999. p.10.